広島に行って

安原　匠

ぼくが広島に行って、印象に残ったことは平和記念資料館です。実際に行って見ると、ぼくの想像をはるかにこえたものでした。原子爆弾のおそろしさや戦争の非惨さが分かりやすいように、タッチパネルや当時の写真、被爆したもの、図、文、もけいで、見たり、聞いたり、さわったりできるようになっていました。特にしょうげき的だったのが、当時の再現映像です。原子爆弾がおとされたしゅんかんに、広島のまちなみが火の海になってしまったので、ものすごくショックでした。原子爆弾がおとされたあとの広島は、辺り一面灰の野原となってしまいました。また、広島にさくれつした、ウランの量が五十キログラムのうち一キログラム以下だったので、もし五十キログラム全てがさくれつしていたらと考えるだけで全身がふるえるくらいこわくなりました。

また、語り部さんのお話では、米軍の計画や原子爆弾をおとせる条けん、放しゃのうと放しゃ線のいか、そのおそろしさや当時家の中でひ爆したお母さんとおばあさんの体けんしたお話が聞けました。ぼくは、たったーつでこんなにひどくなってしまうなんてこわいと思いました。米軍の目標こうほは、広島、小倉、新がた、長さきの四つありました。その中で広島には、ウラン。長さきには、プルトニウムの原子爆弾がおとされました。なぜこんなにもおそろしい原子爆弾を二つも使わなければならなかったのか不思議に思い、戦争のおそろしさを感じました。

ぼくは、世界を平和にするには、まず世界中の人が核のおそろしさを知って理解していくことが大切だと思います。また核保有国が核で国を守るというおろかな考え方をやめて、核を少しでも多く減らしていくことと、戦争経験者が減っていく中でこれからの世の中をつくっていく若い世代が戦争のおそろしさ、

非惨さ、平和のありがたさ、大切さをしっかり考えていくことが大切だと思います。あたり前に生活できることがどれだけ平和なことかを忘れないようにしていきたいです。そして、今、ぼくにできることは、広島に行って感じてきた核のおそろしさ、戦争の非惨さを学校のみんなに伝えて平和のバトンを未来につないでいきたいと思います。